

人の心

伊勢原中学校 辻本 耀清

私が小学5年生の頃、コロナウイルスが流行した。緊急事態宣言により学校が休みになった。その時、よく親から戦争に関する映画を観させられていた。その中にゴジラという怪獣映画もなぜかあった。観ていて暗い、悲しい、苦しい戦争映画よりもゴジラの方が迫力もあり、私は大好きだった。

中学生になり2年生の冬に新作のゴジラが放映されると知り観に行った。内容への感想は人それぞれだと思うが、ゴジラが熱線放射をした後の映像の迫力は本当にすごかった。人間や建物、そこにある全てがまるで埃の様に吹き飛ばされ、あまりの衝撃に言葉もでなかった。

確か小学生の頃、ゴジラは現実にあった核開発による水爆実験をモデルに、核によって目を覚ました古代恐竜という設定だと聞いた事がある。詳しく調べてみると第二次世界大戦へと繋がった。第二次世界大戦は1939年から1945年まで約6年にわたり、日独伊の三国同盟を中心とする枢軸陣営と英仏中蘇を中心とする連合軍陣営との間で行われた戦争だ。人類史上、最大の死傷者を生んだ戦争。その一因は、1945年の8月6日、広島で、その3日後の9日に長崎に原子爆弾が投下され、合わせると21万人以上が亡くなったからだ。

母方の祖母は九州佐賀県の出身で戦争時、曾祖父は台湾に出征していたそうだ。終戦から約半年後に帰国した曾祖父は、結婚をし子供に恵まれた。曾祖父は、あまり戦争時の話をしなかったそうだ。ただ、祖母によると、子供達にくり返し言っていた言葉があったと言う。それは、

「戦争は何があってもしてはいけない。戦争は失う事ばかりで生み出すものは何ひとつない。相手も人間。こちらも人間。お互い親もいて家族も仲間もいる。命ほど大切なものなんて世の中にはない。」

強く真剣で今にも泣き出しそうな表情でいつも言っていたと祖母から聞いた。

ゴジラという映画は、原爆や水爆という大量破壊兵器を生み出した現代科学への深い批判と、映画という形で世界や子供達に周知させる強いメッセージが込められているんだと気が付いた。戦争を防止し平和を構築するためには、社会変革が必須条件だと思う。まず現代の私達がすべき事は、紛争の現状を知る事が第一歩だ。日本から遠く離れた世界で起きている紛争は、縁遠い事の様に思えるが、同じ地球で生きている者として、知らなかったというのはあまりにも悲しすぎる。学校でのイジメ問題や環境問題も同じで「無関心であることは、黙認しているのと同じようなもの」と何かの本で読んだのを思い出す。

授業で学んだSDGsの目標16には「平和と公正をすべての人に」がある。学校の授業は時系列に沿った表面的な事と、そこにあった事実しか習わない。しかし、私達人間が本当に学ぶべき事は現場にいる人達の想いや願いを知り、伝えることではないかと思う。

広島、長崎に原爆が投下されて79年が経ち、唯一の被爆国日本ができる事は、その人間としての心を伝え続ける事、それしかないと思う。今日に至るまで被爆による病気に苦しんでいる人がいること。被爆による、差別や偏見があったこと。今尚、精神的苦痛に苦しんでいる人がいることを知るべきだ。

今現在もウクライナ、ロシア戦争。イスラエルとイスラム組織ハマスの軍事衝突が続いている。

そこでは私達と同じ年齢の子供達や家族が巻き込まれ犠牲になっている。死傷者何名ではない。一人ひとりが誰かの子供であり、大切な人だという事を意識したい。

曾祖父の心からの想いを無駄にしないために。